



問い合わせ先

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
内線303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
七城公民館図書室 日曜日・祝日
旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書イベント情報は、32ページの行事予定に掲載しています。



旭志公民館図書室の入り口にブックポストを設置しました。本を返却する際、図書室が閉まっていたらこのポストに返却してください。(旭志公民館図書室)

新着・お薦め図書

泗水図書館

百歳 柴田トヨ 著
境遇 湊 かなえ 著
虚像 高杉 良 著
ソーラー イアン・マキューアン 編
ふむふむ おしえて、お仕事！ 三浦しをん 著
死と不安を乗り越える 大津秀一 著
クラーケンの島 エヴァ・イボットソン 著
キジのかあさん キム／セヒョン 絵

中央公民館図書室

熱血パーサー乗務録 田中元一 著
恐竜の世界へ ペン編集部 編
マルガレーテ・シュタイフ物語 磯 みゆき 著
ビジュアル忍者図鑑1 黒井宏光 監修
ひとりぼっちのガブ きむらゆういち 作

七城公民館図書室

「すべて真夜中の恋人たち」 川上未映子 著
「やきいもするぞ」 おくはらゆめ 作

旭志公民館図書室

サンダードッグ マイケルヒングソン 著
妖怪伝 河童 たかしよいち 作

耳より情報

年末・年始の休館日・閉室日

年末年始のお休みは次のとおりです。

泗水図書館

12月28日(水)～平成24年1月4日(水)

中央公民館・七城公民館・旭志公民館図書室

12月29日(木)～平成24年1月3日(火)

魔法の庭のものがたりシリーズ
私のおすすめる本は、あんびるやすこさんが書いた「魔法の庭のものがたりシリーズ」です。その理由は、1冊読んでとてもおもしろかったので、8巻全部読んでみました。主人公のジャレットが、いろんな薬を作る時、失敗をしたり、友だちと出会うというおはなしになっています。そこで、このシリーズの中でも、私の1番気に入っている「ハーブ魔法のふしぎなレシピ」を紹介します。



後藤みやびさん(水源小4年)

ジャレットは、有名な演奏家のパパとママというんなホテルに泊まり、1度も自分の家というものに住んだことがありません。そんなある日、ジャレットのもとに一通の手紙が届きます。他にもいろいろお話がありますよ。

殺意は必ず三度ある

ひがしかわあつや 東川篤哉 著



いもとようこ 文・絵

野原の土にうもれたままじっとしていた球根がおひさまに温められてうっかり土の上に芽を出してしまいました。おひさまや雨にはげまされてとうとうつぼみは少し開きました。その時ですー。成長することの素晴らしさ、勇気を出す事の大切さを伝える絵本です。(中央公民館図書室)

万句の里俳句会 10月句会

一瞬の魚影走る秋の川 宮本 雅子
ぬかる田に足とられつつ稲を刈る 林 まつ子
一途とは切なきものよ虫の声 富田 幸子
小鳥来て庭のどこかが弾みをり 松永 久子
初鴈のゐるそれだけで光る川 中路 郁子
好きな書について更けにけり夜長の灯 村山 数恵
柿もげば下で待つ子の太き声 服部 静子
この夕べ盃重ぬるも秋思なほ 五丁 義昭
腰痛は死ぬまでの友柿を剥く 藤本 邦治
進路まだ決まらぬ悩み秋うつつ 渡辺 大寿
草の穂の押し花ひとつに霧を吹く 中尾ヨシコ
人々に酔うて巡るや秋の旅 東 芳子

旭志文芸俳句会 10月詠草

せせらぎ俳句会 10月例会

肥後狂句桜会 10月例会

穂芒や月無き夜は窓越しに 芹川 蓉子
咲きほこる萩に隠れし無縁墓地 水谷 ミネ
彼岸花炎たつこと畦に燃ゆ 芹川のり子
下心 弔電ならば名も売るる 光堀 善教
出来上がり 祝辞はしどろもどろで 上村 ○子
カンカン 昼食の後昼寝する 小川 繁美
下心 日頃せんこつしてやらす 狩野 本六
ただの人 秘書も慌てち職探し 窪田 明德
寝相の悪さ 八畳一間回る孫 御手洗三代
よか薬 やっぱ俺には酒が効く 柏原 乗仏
にぎり飯 良かとき取って食いなは 中島 五女
よか薬 宣伝のごつア利かんばい 平井 江彩
よか薬 効きすぎるとも恐ろしか 宮上 美由

肥後狂句水笑会 10月例会

七城短歌会 10月詠草

御社に彼岸のお簞り子ら混じえ酒肴 あまねく宵を賑あう 佐々 重弘
秋冷えも又よし夕餉娘と二人ぐつぐ つ煮え立つ寄せ鍋つつく 岩崎 照代
田をそよぎ部屋に入りくるみどり風 吾より先に新聞めくる 木下 陽子
曾孫の生れし報せに会わんとて走らす車に翼あらざり 緒方 寛子
急ぎいる舗道に命終わるたる蠅螂またぎふり返り見る 高木 精

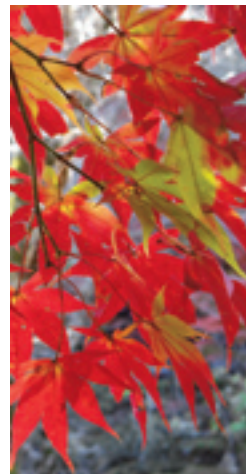
高齢者大学 10月詠草

わが心も点してくるる街の灯に今日も無事よとシャッター下ろす 山代 静子
赤バイクの郵便夫まち頼みをりメ切り迫る出詠葉書 岩木タエ子
八十路越えはがらに生きむと願へども続く暑さに力も失せて 安東 綾子
遠き日の旅の思ひ出辿りをり外出叶はぬ今にしあれば 梅野カオル
「時期くれば結婚するよ」と言ひ居りし四十路の姪の今日は花嫁 山田 弘子



菊池短歌会 11月詠草

広き葉もまばらに実る秋茄子の指染むばかり深き紫 中原ちえ子
あれこれの決意は淡くほのぼのと種蒔くほとり揚葉蝶舞ふ 怒留湯健蓉
母の忌も木犀の香もはやおくり上り月いまやはら光さす 村上さき江
曾孫の伽に疲れし飼猫がトラクターの屋根にひと日寝そべる 山下 菊代



目線に捉ふ返り咲きたる木瓜の花一点の紅素枯る庭に 山代 静子